

片田牧場の経営の改善

情報マネジメント学科 倉島研究室 4HS1-19 片田拓己

1. 概要

学科で学んだ経営情報工学の知識を生かし、経営状態の悪い“片田牧場の経営の改善”を取り上げる。研究内容は現状の問題点・取り巻く環境・改善点を挙げ、分析して検証していく。

2. 分析

ツリーチャート・特性要因図・SWOT分析を用いて、牧場経営の構造・改善・外部からの影響を表にしてみた。



表. 1 牧場経営のSWOT分析

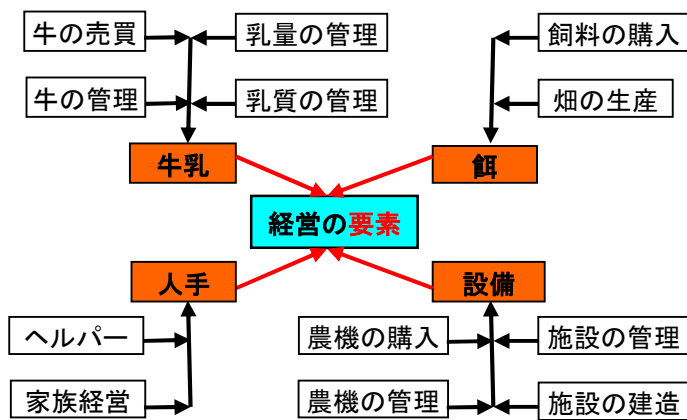


図. 1 牧場経営の要素

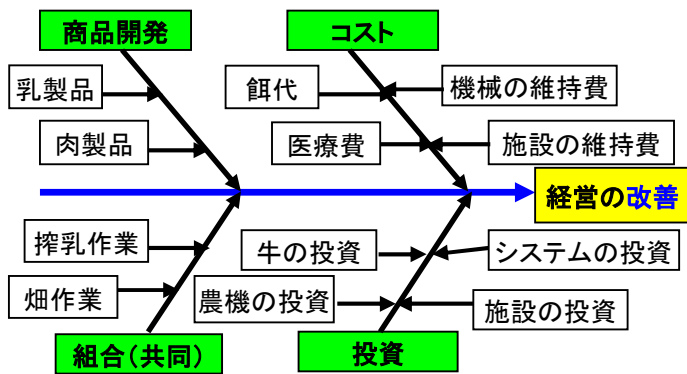


図. 2 牧場経営の改善点

		機会			脅威		
		規模の拡大	機械化の拡大	組合の拡大	外国産の輸入	乳価の低下	離農の増加
強み	自由な経営		◎	△	◎		△
	品質が高い牛乳					○	
	競争が激しくない						
	土地確保しやすい	○					
	生産に集中できる						
弱み	借金が多い		○				△
	生産調整ある						
	厳しい労働			◎			
	収益が低い	△			◎	○	
	動物相手の仕事						

3. 仮説

SWOT分析で挙げたそれぞれの◎の部分から、仮説を計4つ書き出した。強み・機会→1、強み・脅威→2、弱み・機会→3、弱み・脅威→4となっている。

1. 搾乳部分の機械化で衛生面の管理が行き届き、乳質が良くなり増収となる。
2. 外国産に対抗するために、各牧場ごとにオリジナル商品作成・販売を行う。
3. 組合の参加数・事業の拡大で、一戸あたりの牧場の費用・労働負担は軽減される。
4. 牛乳の出荷だけの収入に頼るのではなく、新しい事業に着手を試みる。